

令和3年度 学校課題推進計画

吉田西小学校

1 研究主題

主体的に表現し、伝え合う児童・生徒の育成

～基本的表現を身につける授業の創造と語彙力の育成を通して～

2 研究主題設定の理由

本校では、昨年度に引き続き、英語学習を中心としたコミュニケーション能力の育成を目的として研究を進めてきた。外国語科・外国語活動の英語学習では、児童の興味・関心を引き出す工夫をし、基本的な話型の習得により、コミュニケーションへの苦手意識は少なくなり、リアクションをしながら英語でのやり取りをしようとする児童が増えた。また、国語科において、基本的な表現力、話合いの仕方を身につける授業を工夫することで、伝え方を習得することはできた。しかし、自分の考えや思いを自分の言葉で主体的に伝え合おうとするまでには至っていない。コミュニケーションに必要な語彙力不足にも課題が残る。

そこで、今年度は、外国語科・外国語活動・英語活動において、英語でリアクションを付けたコミュニケーションができるようにすることはもちろんのこと、各教科の言語活動や教育活動全体で取り組みを進めることで、主体的に自分の考えや思いを表現できる児童を育成しようと考えた。

3 研究の仮説

次のような手立てをとれば、主体的に自分の考えや思いを表現できる児童の育成につながり、コミュニケーション能力が向上するであろう。

- (1) 外国語科・外国語活動・英語活動において、児童が「やってみたい」と思えるような学習課題や活動を数多く設定した授業の創造
- (2) 各教科等の特性を生かした言語活動の充実と教育活動全体における指導
- (3) 基礎的な語彙や表現方法の定着

4 めざす児童像（身に付けさせたい力）

既知の学習内容を活用し、表現力豊かに伝え合う子ども		
低学年	中学年	高学年
○言葉ではなく、文で話せる子 ○思いや考えのわけ（根拠）が言える子	○大事なことを ゆっくり相手を見て話せる子 ○共通点や相違点を見つながら話せる子	○表現力豊かにコミュニケーションできる子 ○論理的に 筋道を立てて話せる子

5 仮説検証のための手立て

- (1) 外国語科・外国語活動・英語活動において、児童が「やってみたい」と思えるような学習課題や活動を数多く設定した授業の創造

①題材や学習形態の工夫

- ・児童が進んでコミュニケーションを図りたいと思うような、興味・関心のある題材や活動を扱う。
- ・反復練習のようなやり取りではなく、伝え合う必然性のある場面を設定する。

- ②安心して主体的に取り組める授業の展開
 - ・めあて、ゴールを明確に示す。
 - ・ALT・JTEの役割の確認を十分に行う。
- (2) 各教科等の特性を生かした言語活動の充実と特別活動や日常的な生活場面での指導
 - ①コミュニケーション能力の育成のための言語活動の充実
 - (南河内中学区小中一貫で作成した資料を参考に)
 - ・各教科の特性を生かして、話し合い活動、説明する活動を充実させる。
 - ・児童同士の発言をつなぐ教師のコーディネートスキルを高める。
 - ②特別活動や日常的な生活場面におけるコミュニケーションの充実
 - ・係活動や委員会活動での話し合いを主体的に進められるよう指導する。
 - ・全教職員が日常生活の場面でも、コミュニケーション能力の育成を意識し、指導する。
- (3) 基礎的な語彙や表現方法の定着
 - ①「まなびタイム（10分間の学習時間）」での語彙力向上の学習
 - ・言葉遊びや語彙・文法のプリント学習で基礎基本の定着を図る。
 - ・いろいろな言葉に置き換えて説明できる力を身に付ける。
 - ②朝の会「イングリッシュタイム」（英語を使う時間）の実施
 - ③ノー原稿発表の充実
 - ・各学年に応じた達成目標を決める。
 - どのような原稿にするか（書くこと）、どのように発表するか（話すこと）の目標が達成できるよう指導する。

6 研究の方法

- (1) 授業研究
 - ①校内研究授業及び授業研究会
 - ②小中一貫教育推進の一環としての外国語活動研修会
- (2) 指導者を招聘しての研修
- (3) 研究組織
 - 校長 — 教頭 — 研究推進部 — 授業研究会
 - └ 奇数学年ブロック
 - └ 偶数学年ブロック
 - 教務主任
 研究主任
 外国語主任
- (4) 研究の形態
 - ・ 全体会
 - ・ ブロック研修（授業研究会では校長・教頭・教務などが加わる場合もある）
 - ・ 個人研修
- (5) 研修日及び時間
 - ・ 全体による研修日は原則として水曜日で、時間は15：05～16：30
 - ・ 要請訪問やS&Uコラボ事業は、これとは別に日時を定める。
 - ・ これ以外の研修については、それぞれの内容に応じて計画する。